

**第 1 回 品川区区民保養所のあり方検討会
会議録（議事要旨）**

日 時：令和 7 年 7 月 2 日（水）15:00～16:35

場 所：中小企業センター 2 階 中講習室

出席者：

委員	小杉委員長、三宅副委員長、上野副委員長、 久保田企画経営部長、川島地域振興部長、米田教育次長
事務局	平原地域活動課長、石井学務課長、 菅野庶務係長、関口保健給食係長
オブザーバー	崎村企画課長、長尾施設整備課長、佐藤経理課長
その他	地域活動課庶務係 担当者 1 名

1. 開会
2. 地域振興部長挨拶
3. 委員紹介
4. 委員長・副委員長の選出
5. 議事
 - （1）審議の進め方・スケジュールについて
—事務局からの説明
⇒ 委員了承
 - （2）区民保養所の現状について
—事務局からの説明
⇒ 委員了承

(3) 意見交換

【主な意見】

(委員)

区民のための保養所とした場合、区民にとって何が一番いいのかを考えたい。その中で、7ページの品川荘の利用状況が、80%以上の区民の方の利用率というのはいいい数字ではないかと思う。つまり、区民の方々から、ある一定の支持は得ている保養所ではないかと考える。

なお、使われ続ける保養施設にするため、収支がバランスするという部分に関しては、ある程度、メスを入れていかなければならない。

事業の枠組みについても、指定管理制度や賃貸借制度等、一度整理したうえで、売り上げを伸ばし、維持管理費を抑えるのか、このような考え方をういて、さらに区民の理解を得ていく必要があると感じる。

(委員)

客室の稼働率が60%から70%を維持しているのは素晴らしいと思う。しかし、総定員に対する稼働率が30%と低いのは、お客様のニーズが少人数で宿泊したいということではないかと思う。現在の品川荘は大人数用になっているが、今回の大規模修繕で、例えば、部屋を狭くして少人数で利用できる形にするのは基本的に難しいと思うので、現状は品川荘の存続は難しいのではないかと感じる。

また、光林荘は、保養所と位置付けが違っているので、将来的に赤字が出たとしても行政としてやっていかなければならないと感じた。

(委員)

校外学習の行き先は、幅広く検討すべきだと思うが、その中でも、日光は非常に魅力的だと感じる。

光林荘で校外学習を継続する場合、維持管理は一定のお金がかかるため、光林荘を手放して借り上げの形で実施することも比較してみる必要があると感じる。

(委員)

誰も彼もが旅行に行けなかった時代とは異なり、泊まる場所が数多くある時代だからこそ、この時代における保養所の意義について、区民ニーズも含めてご意見いただきたい。

(委員)

区民保養所は区民の健康増進と保養に供する目的である。品川荘は、具体的な数字があるわけではないが、リピーターが多い。

日光光林荘は温泉がなく、宿泊施設とはいえず学校の教育施設の形になっているため、トイレのない部屋や部屋に鍵がかからない作りになってい

る。これまでも保養所事業の見直しをしてきたため、今後、どうしていくべきか考えるタイミングには来ていると認識している。

(委員)

もう一点気になっているのは、保養所の問題だけで議論するのではなく、区全体の様々な事業の絡みで、優先順位があると思う。そのような観点からご意見いただければと思う。

(委員)

保養所事業は、見直す段階にきていると感じている。

この間、直営から民間貸付にすることで、経費を下げていく取り組みを実施してきた。各区も、保養所事業についての見直しを実施しているので、保養所事業に対して考えるいい機会にしたいと思う。これは継続・廃止も含めて、両面からの検討が必要かと感じる。

また、経費の問題として、保養所事業を継続する場合、施設の管理費と改修費がかなりかかってくるため、これをかけてまで継続するのか、費用対効果をきちんと図ったうえでの検討が必要ではないかと考える。

なお、校外学習においても、光林荘と民間借上方式で費用対効果を把握した上で結論を出していく必要があると考える。

(委員)

品川荘は、ハード面の工夫をしなければ難しいと思う。

どういう決断をしても、やっぱり区民の皆様が、その説明なら納得できると思ってもらえるところにどう持っていくのかが大事だと思う。

一方、教育においては、すべてが民間に変えられるわけではないので、光林荘は、コストパフォーマンスとの戦いになるかと思う。しかし、光林荘があるから何となくだらだら使い続けるのはよくない。こんな時代だからこそ、品川区はこういう子育て、子供の教育をするということとセットで、これは個人的には活かす方向がいいのかと感じ、教育の方がお金の面に巻き込まれて、貧弱になっていくのはと寂しいと感じた。

(委員)

品川荘について、工事費がかからない形で集客を集める方法はないか。何か案が出れば、検討の余地はあるかと思う。

(委員)

個人的には、品川荘をそこまでして残すことについての必要性、意義が見つけづらい。保養事業を公共でやらなければならない説得力が欲しい。

(委員)

品川荘において、リピーターさん頼みでは、継続は難しいと思う。

しかし、品川荘を残す、残さない関係なく、収益を上げる方法を考えるべ

きだと思う。最終的に、区民に説明するときの材料になると思う。

(委員)

光林荘の使われ方として、学校以外の社会タイプまたはスポーツ少年団の合宿利用もあるのではないかと思ったが、それはもうすでに実施済みなのか。

(委員)

近くに、アイススケート場もあり、そちらの合宿利用はある。数があるわけではないが、少年野球やサッカーのようなスポーツ合宿の需要はある。毎年使う常連もいる。

(委員)

仮に、光林荘を残した場合、もっと積極的に区が関わるのが前提になると思う。

(委員)

もし、保養所が存続となった場合の運営事業者の意向はどうか。

(委員)

数ヶ月前に伺ったところ、今後もこの2施設をしっかりと運営していきたいというようなお話でした。

(委員)

伊東温泉に行ったことがなくどんな様子かわからないが、大規模修繕でお金がかかるとはいえ、せっかく伊東温泉にこのような施設を持っているのであれば、手放さないで持ち続ける価値はあるのか。

(委員)

保養所事業は、お金をかけてでも、保有したほうがいい。それはなぜかというと、データを見る範囲の中で、品川区民からある程度評価を得ているため、やりようがあると思う。方法としては、収入と施設運営費をバランスさせ、公租公課と修繕費を品川区の負担とする。

これをセットにすることで、区民の理解を得られるのではないかと思う。収入を増やす、施設管理費を削減するために、何らかのノウハウを投入する必要がある、目標に到達するためには何が必要か議論すべきと思う。

(委員)

保養所利用者は、伊東温泉の品川荘という立地が影響している部分はあるのか。

(事務局)

事業者に聞いた話のため、感覚的なところも含んでいるが、品川荘利用者は、大体建物に閉じこもりきりになるという傾向がある。

例えば、三々五々で歩いてどこか他のお店に行くというより、中で夕食を楽しんでそのあと部屋に戻ってくつろぐ方が多い。そういう意味では、伊東であるというよりは品川荘という旅館に行くことが目的化していると感じる。

(委員)

熱海、草津では、国内外の観光客がいてゆっくりできないが、伊東に行くと、隠れ家的な存在で、ひっそりとして本当に保養ができる。そこに、何か強みがある気がする。

(委員)

人気のある温泉旅館にしていく方向とは違うのではないかと思う。先ほどから話しているとおり、区がやることの意味が欲しい。

(委員)

事務局に確認ですが、品川荘は地元の町会や自治体、地区委員、青少年の活動をしている方々が、研修目的で、宿泊をして利用していたが、今でもそういう状況は続いているのか。

(事務局)

今でも全くゼロとは言わないが、コロナ前のような数があるわけではない。品川区の町会自治会連合会の単位で利用するのは全くなりませんでしたので、そういった活用方法としては、限りなく低迷している現状です。

(委員)

個人的には、光林荘も品川荘も残す場合、無償貸付の形もいいのかもしれないが、今後は多少関与する形で実施すべきである。

品川荘であれば、教育的・地域活動的なプログラムと合わせて利用することで、最終的に成果があらわれるのではないかと思う。区民の方が品川区に住んでいると、手ごろな価格でリフレッシュ感が味わえるとか、子育ても、学校だけではなく、いろんな機会があつていいねと、他区からうらやましがられるぐらいの何かとセットがいいのではないか。それでも苦しいということであれば、カットしていく方向なのかなと思う。

(4) 課題整理

—事務局からの説明

⇒ 委員了承

6. 連絡事項

7. 閉会